



さて前回に続いて、人格をキーワードに、子育ての勘所を探っていきましょう。

子育ての目標は？ ここでは「人格の自立」と定義して話しを進めていきます。ですから子育ての内容も、「人格を育てる」ということになり、まず、文字に書くシンプルですが、内容は、相当に深いものがあります。掘れば掘るほど、宝物がざくざくと出てきます。ご一緒に宝探しにかけましょう。

それでは子供の人格を尊重し、人格を伸ばすために、誕生の瞬間から順序だてて学んでいきましょう。

胎児は人間

まず、人間の存在は生物学的には、受精の瞬間から始まります。それが医学、法律、思想によって変わってくることもあります。時代や国によっても違いがあります。

さて、聖書的にはどうでしょうか？

「神はわたしたちを世界の基の置かれる前から彼（キリスト）にあつて選び、御前で聖く、傷のないものにしようとされました。」（エペソ一・4）
私たちが人間は、受精の前から、神の御前に存在していたのです。神の時が満ちて、今ここに、この母の胎内に、神が命を与えられたのです。

私は百パーセント、胎児が神のもとから来たことを信じています。ですから人間がその寿命を終えたとき、神のもとに帰ると言うことができるのです。

ですから、もちろん胎児は、神のかたちに創造

された人格的存在としての人間です。

「それは、あなたがた内臓を造り、母の胎のうちで私を組み立てられたからです。

あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書き記されました。私のために作られた日々が、しかも一日もないうちに。」

(詩篇一三九編)

「わたしはあなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々の預言者として定めていた。」

(エレミヤ一・5)

私たちの存在のルーツは、神のもとにあります。よく「赤ちゃんがえり」と言います。子供が存在の危機を感じる時、例えば弟、妹が生まれました。また幼稚園への入園など、そんな時に子供は「赤ちゃんがえり」をします。

それは、絶対的な愛と守りの中にいた状況に帰りたくなるのです。これは子供だけの現象ではなく、大人にも見られるものです。さらに「胎内回帰」という言葉もあります。赤ん坊の時を超えて胎児の時にまで帰ろうというのです。これも、人間が持っている、絶対的な愛の中に安らぎたいという本能的な欲求でしょう。

しかし、どうしたって母の胎内の中には戻れないのです。精神的に戻れたとしても、そこに求めている愛があるどうか分かりません。

むしろ、その時期に愛を得られなかったからこそ、愛を求めて胎内回帰をするなら、それは矛盾となります。もともと胎児の時期に、愛情をたっぷりと受けていたら、そこに帰ろうとはしないのです。愛されている確信のある人は、過去ではなく、前に向かって生きようとする力があるからです。

心理学者は、私たちの傷を癒すために、過去に

目を向けます。それも必要なプロセスではありません。しかし、もし聖書が述べているように、人間の存在が受精以前に神のもとにあったということであるなら、私たちは、帰る場所があるということとです。そうです魂の故郷です。

よく、クリスチャンになって、父なる神との関係を回復すると、「故郷に帰ってきた」という感覚を持ちます。それは、私たちの一番深いところの魂が、もともと自分は神のもとから来たのだ、ということを知っているからでしょう。

さきほどの聖句には「私のために作られた日々が、しかも一日もないうちに。」と書かれています。つまり、自分の人生がまだ一日も始まっていない時に、すでに神は自分を知り、見ておられた、それは神に愛されていたということです。

人生は、山あり谷あり、色々あります。人生の書物にはたくさんの方が書き込まれています。でも私たちの存在は、神の愛から始まっているの

です。私たちの存在に最初にあったのは、神の愛
3
なのです。どうせ帰るなら、そこまで帰りましよう。そこには、確かな愛があるからです。

胎児の人格

胎児が人間であるなら、胎児もまた神のかたちに造られたものです。ですから胎児にも人格があります。もちろん未成熟ですが、潜在的な人格を有しています。子供の人格を育てるということは、胎児の時から始まっています。

私たちは唯物論的な世界観に知らずのうちにそまっています。目に見えるものが全てであると思っ
ているところがありません。そこから目に見えない胎児の存在を軽んじてしまうことがあります。しかし、胎児にも様々な人格的行動があるということが報告されるようになり、胎教や、胎内記憶
ということが言われ始めました。

ある調査によると胎内での記憶を話す子供、特

にやつと言葉を覚えたばかりの三歳から五歳児に限られています。四二パーセントの子供に誕生の記憶が、五三パーセントの子供に胎内の記憶があったと報告されています。

妊娠五ヶ月あたりで、胎児の脳細胞はすべて育っていると言われます。またその頃には知覚が備わっているとも言われます。

そこで胎児に、美しい音楽を聞かせたり、話しかけたりする胎児教育ということが言われ始めました。胎児の人格を認めることは素晴らしいことですが、胎児の時から受験に備えるなどというナセンスな胎教が行われたりすると困ります。

胎児の危機

胎児にとっての危機が何度かあります。まず受精時、性別が分かった時、産まれた時です。

受精時、正確には妊娠が判明した時です。それが望まれたものか、望まれないものであったか、

これは大きな影響を胎児に与えます。

ある二〇才代の女性のケースですが、彼女は家庭も健康も収入も、何もかもが順調でうまくいっています。しかし、自殺願望がなくなりません。そんな理由は全くないのですが、時々どうしようもなく死にたくなります。自分が存在してはいけないという強迫観念にとらわれてしまいます。

よく調べてみると、お母さんが彼女を妊娠した時、それは望まれない妊娠であったことが分かりました。しかも妊娠が分かったときには手術が出来る時期を過ぎていました。お母さんは何とか流産するようにと願って、わざとそのように身体を痛めたそうです。しかし、流産はなく彼女が産まれました。産まれてみると我が子可愛さで、何とか生活をしてくる事が出来ました。

しかし、そこで胎児に伝わったメッセージは、「あなたは存在してはならない」という存在否定でした。それは、彼女の心の深い部分に刻まれた

メッセージとなりました。

性別が分かったときの反応も胎児に大きな影響を与えます。

よくあることかもしれませんが、男の子がいい、女の子がいいと言います。でも言われている本人からすればどうでしょうか。性別は自分で選んだものではありません。性とは神が定めたものであり、それも人格の一部なのです。性を否定することとは人格を否定することになります。大人は気軽に、男がいい、女がいいと言いますが、言われている胎児にとっては大問題です。

ある三〇歳代の男性は、自分は女であると思っています。その感覚に悩み、逆に極端に男性らしく振舞いますが、何か不自然です。

彼は次男として産まれました。両親は二人目は女の子を望んでいました。しかし期待に反して男の子でした。両親は名前も、ベビー用品も女の子用しか用意していませんでした。なんと名前も女

の子の名前、そして女の子の服を着せられていました。

産まれた時の対応も大きな影響があります。新生児は、初めて外の世界に出てきた不安で一杯です。だからこそ、愛情をもつて受け入れられることが必要です。そこで、もし性別のゆえに、あるいは望まれない妊娠であったため、胎内から出て初めて受けるものが、失望、落胆、ため息であったとしたら、当然、その子は存在不安を持つことになります。

「あなたがない方が私は幸せ」「あなたが女性である限り、私はあなたを受け入れない」「えー！あなただだったの?!」相手にとって、自分自身であることが失望、落胆の原因とされたら、目の前で存在が無視されたら、死にたくなるくらいショックです。大人でもそうですから、無垢な胎児の受ける影響は計り知れません。

あるいは胎児の時期に、母体が大きな危機にさ

らされた、精神的なショックがあつたなどということも影響があります。

胎児は、言葉が伝わらない分、言い訳が通じません。ちよつといい間違えたとか、そんなつもりじゃなかったとか、通じないのです。そこで感じたままを、白紙の紙に文字を書くように、そのままを受け取るのです。

ここまでは否定的なケースを書きました。暗く重たくなるような感じがします。妊婦は、薄いガラスの上を歩いているようなものだ、とある心理学者は言いました。それくらいに精神的にデリケートな時期であると。そんな時期に、いつも胎児に肯定的な影響を与えることは、ある意味で無理なことです。少なからず、私たちは胎児に伝わらないで欲しいということを考えたり、言ったりしてしまふものです。

しかし、程度があります。先に書いたような極端なケースは知識があれば避けることのできる場

合もあります。学ぶことによつて不必要な失敗をしないで済むこともあります。

さて、しかしすでに産まれている場合にはどうしましょう。

胎児の癒し

我が子が産まれてしばらくして、胎児の時期のことを冷静に振り返ることが出来るようになるかもしれません。そんな時、もし胎児の存在や心を傷つけるような何かを思い出すようなことがあつたとしたら、その時点で、子供のために癒しを祈ることが出来ます。

まず胎児が受けた情報が、その心に書き記されているとするなら、その情報に上書きして、新しい情報を書き記すことが必要です。

その言葉は、以前の言葉よりも権威のある言葉でなければなりません。そうです、それは「神の

言葉」です。次の順序で祈ってみましょう。

①「もし、我が子が胎児の時に傷ついたことがあるなら、その傷を教えてください。」と祈りましょう。そして気づいたことを書き留めておきましょう。

②それが自分自身の過ちであるなら、そのことを悔い改めて、主に赦されたことを確信しましょう。

後悔からは何も生まれません。それでも自分が神に愛されている、神の子供であることを確認しましょう。

③胎児に影響を与えたと思われる言葉に対して、聖書の言葉を宣言していきます。その時に、我が子に手を置いて祈りましょう。

例 妊娠が判明した時、失望した。

「エペソ一・4を読む。あなたは神に選ばれ、造られた子供です。神も、この全世界も、あなた

の誕生を望み、喜んでいきます。あなたは愛されている子供です。私も***（子供の名前）の親であることを心から喜びます。産まれてくれてありがとうございます。今、私が不用意に発した言葉、思いを主イエス・キリストの御名によって破棄します。

神様、あなたが***を私に子供として与えてくださったことを感謝します。今、***を神の愛で満たしてください。存在の不安や恐れ、悲しみがあつたら、今神の愛で包んでください。存在の喜びで満たしてください。私も母（父）親とされたことを喜びます。私にとって***の存在は喜びです。今主イエス・キリストの御名によって***を祝福します。

主に癒され、すべてが益に変えられたことを感謝します。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

もちろんこの通りの言葉ではなくても、自分の言

葉で祈ってください。要は、以前の否定的な言葉を破棄して、新しい神の祝福の言葉に変えるということです。

胎児を祝福する — 最高の胎教 —

胎児を祝福することは素晴らしいことです。

胎児が喜びに満たされるためには、次の出来事が参考になります。

イエスを身ごもっているマリヤのもとに、親戚のエリサベツがやってきました。彼女もヨハネをみごもって六ヶ月です。その時に、聖書には次のように書かれています。

「エリサベツがマリヤの挨拶を聞いたとき、子が胎内で踊り、エリサベツは聖霊に満たされた。：本当に、あなたの挨拶の音が耳に入った時、私の胎内で子供が喜んで踊りました。」

(マタイ一：四一、四四)

ここでは、胎内で子供が喜び踊っている、とい

うのです。なんて素晴らしい瞬間でしょうか。それは、マリヤの挨拶が耳に入った時とありますから、胎児は母体を通して声が聴こえているということです。

マリヤの胎内にはイエスがおられます。ですから、胎児のヨハネは、ここで胎児のイエスに出会っているのです。

最高の胎教は、母親がイエスと交わることです。御言葉と祈りと賛美の中で、母親自身が恵に満たされていることが、胎児には最高の胎教です。

妊娠中は、母はもちろん、父親も共に、胎児にむかってイエスの御名によって祝福を祈りましょう。イエスの御名によって祈るたびに、胎児は喜び踊るのです。